

イスラエルの回復のために祈りましょう

special prayer focus

スコット(仮庵の祭り)

(民数記 29:12-39)

スコットは、聖書では仮庵の祭り、仮小屋の祭り、収穫祭といった、さまざまな名前で知られている。この祭りは、贖罪の日の5日後に始まる。聖書の時代には、この祝日こそが数ある例祭の中で最も盛大に祝われた、喜びあふれる祭りだった。同時代の文献では、この日はただ「祭り」と呼ばれている。今日でもまだ人気はあるが、昔ほどの、人々からの愛好と支持はない。聖書では、祭りは7日間行われたが、今では8日間となっている。

聖書によると、イスラエル国民は、一年の最後の収穫で落ち穂をとって、それを携えてエルサレムに上らなければならない。彼らは、先祖たちが荒野で40年間仮小屋に住んでいたことを思い出すように、仮の小屋を作り、そこで一週間生活するように命じられた。新約聖書の時代になると、この祭りは大変なにぎわいをみせるようになった。イエスさまのいくつかの有名な言葉も、この週の間に語られ、そしてこの祭りの習わしに言及している。例えば、イエスさまが「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい」と言った時、これは「水注ぎの儀」と呼ばれる、祭司が行う儀式とつながっている(ヨハネ 7:37)。イエスさまが「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです」と言ったのは、祭りの最終日の夜、ロウソクをともし式典で、エルサレムが遠方から見られるほど光り輝くのを引用したものである(ヨハネ 8:12)。

現在のスコットは主に、シナゴグあるいは家庭ごとに仮小屋、つまりスカーを建造し、それを飾って祝う。少なくとも一回の食事はスカーでとる。そして一晩スカーで寝ようとする家族も少なくない。最後の収穫祭なので、果物や枝をもってスカーの中と、シナゴグそのものを飾る。シナゴグでは、1日目と8日目に礼拝を企画する。礼拝の特徴として、ヤナギ、ギンバイカとシュロの枝を束ねたものを揺り動かす。エトログと呼ばれるカンキツ系の果物も登場する。

この祭りに関連するテーマは、神の供え、御霊の降り注ぎ、最終の収穫、そして、全地における神の臨在と支配である。預言者ゼカリヤは、メシアが到来した後、すべての国々の生存者がエルサレムに来て、仮庵の祭りで主を礼拝すると述べている(ゼカリヤ 14:16)。

祈りの課題

☆ この時期に、多くのユダヤ人の魂が収穫されるように。

☆ イスラエルを含めた世界各地で、仮庵の祭りを執り行い、あるいは参加する多くのクリスチャンのために。彼らがユダヤ人に対して有効な証しをすることができるように。

☆ 多くの信徒に御霊が降り注がれ、その結果、イスラエルに「ねたみを起こさせる」ことができるように。

☆ ますます刈り入れの時を迎えるユダヤ人の畑に、多くの働き人が遣わされるように。